

# これからの現職教員院生に対する研究支援を考える

- メンタリングと勤務校訪問型スーパーヴァイズに焦点をあてて -

企画・司会：	後藤 守	(北海道教育大学大学院 G P)
企画・話題提供：	植木克美	(北海道教育大学大学院 G P)
話題提供：	庄井良信 #	(北海道教育大学大学院 G P)
話題提供：	高橋道也 #	(札幌市立山の手小学校)
話題提供：	氣田幸和 #	(札幌市立北九条小学校)
話題提供：	久保井 健	(札幌市立東山小学校)
話題提供：	跡部敏之 #	(北海道教育大学大学院 G P)
話題提供：	三上勝夫 #	(北海道教育大学大学院 G P)
話題提供：	後藤広太郎	(北海道教育大学大学院 G P)
話題提供：	橋本道子 #	(北海道教育大学大学院 G P)
話題提供：	川端愛子	(北海道教育大学大学院 G P)

## [企画主旨]

北海道教育大学では、平成 19 年度から文部科学省の大学院教育改革支援プログラムの支援を受け、「現職教員の高度実践構想力開発プログラム」事業に 3 ヵ年計画で取り組んできています。このプログラムでは、現職教員院生の高度な実践構想力の涵養を図るために、質の高いメンタリングと勤務校訪問型スーパーヴァイズを行っています。メンタリングでは、研究的実践者を「教育臨床実践メンター」として登用し、現職教員院生の教育実践・研究支援を複数形態のメンタリングを通して実施しています。そして、勤務校訪問型スーパーヴァイズでは、実践的研究者である大学教員が現職教員院生の勤務校を訪問し研究指導を行い、実践における研究主題の構築と研究の遂行を支援しています。

本企画では、現職教員院生、メンター、大学教員の 3 者の視点から、話題提供を行い、修士論文作成を通して可視化される現職教員である院生の高度実践構想力の涵養とそのプログラムの妥当性を検証します。そして、参加者の方々と大学院における現職教員への教育実践・研究支援について議論を深めていきたいと考えます。

[北海道教育大学大学院 GP について] 植木克美

プログラムの概要を説明し、事業活動実績、取組の成果を述べます。

[現職教員院生、修了生の立場から] 川端愛子・高橋道也・氣田幸和・久保井 健

大学院在学中は、勤務校訪問型スーパーヴァイズやメンタリングを通して、大学教員、相談・研修担当専門員、教育臨床実践メンターという複数の先生方から支援を受け、教育現場のフィールドを生かした修士論文を作成しています。修了後は、修了生メンターとして、大学院での学びを学校現場で生かしている実践例、修了後も継続している研究等を中心に後輩院生へ紹介し、ディスカッションを通して、協働した学びを深めています。このことについて話題提供します。

[メンターの立場から] 跡部敏之・三上勝夫・後藤広太郎・橋本道子

教育現場の課題解決を図るには、慣れ親しんだ現実から新しい研究視点へと重点移動が必要になります。そのため 院生とメンターとの双方向のやり取り(個別メンタリング)をはじめ、本院修了生の参加による討論(グループメンタリング)、それらの取り組みの中で提起された課題に即応する学習会(メンター企画勉強会)の実施、院生の勤務する学校で大学教員が行う研究支援(訪問型スーパーヴァイズ)に同行すること等、院生の特性に応じた柔軟で多元的、組織的なメンタリングを実施しています。

[大学教員の立場から] 庄井良信

教師の高度な実践構想力は、生きた現場の事実に触れて、何よりも自分の五感で感じた世界を大切にしていって、そこに「問い」を発見し、その「問い」を理論へと橋渡ししていく専門的な支援(質の高いメンタリング)を受けて十分に磨かれていくものです。人間の発達援助に関する洗練された学術的教養と臨床的な実践構想力は、このような理論と実践との緊張を伴う豊かな往還への継続的な専門的メンタリングと、探究的な研究力量の形成への普段の支援によって、本格的に高められていくものだと考えられます。